



ぴゅあ

毛野南小学校
人権教育だより
平成28年7月19日

本校では、保護者の願いや児童の実態を踏まえ、「人権尊重の精神を基盤にして、心身共に健康で自ら学び、自ら考え主体的に行動できる、心豊かでたくましい実践力のある子供」を目指して、学校・学年・学級で、様々な教育活動を進めています。子供の感性を豊かにし、自分も他の人も大切にできる人を育てるために、すべての教育活動を通して人権教育を進めています。それは決して特別な教育ではありません。一人一人の子供を大切にする教育です。

この人権教育だより「ぴゅあ」は、保護者の皆様に、学校における人権教育について正しく理解していただきながら、学校と家庭が共に力を合わせて心豊かな子供たちを育てていきたいという願いで発行します。

夏の人権週間

7月4日から8日までを「夏の人権週間」と位置付け、人権について考える機会を設けました。子供たちは、人権集会をはじめ授業はもちろん、トリム、なかよしサークルなどの様々な体験活動を通して、「命を大切にする」「みんなと仲良くする」など、人権を守るためにどうしたらよいかを考えることができたようです。

人権集会



7月6日（水）、人権擁護委員の皆さんに人権についてお話しをしていただきました。

「ココロ屋」というDVDを視聴し、私たちの“心”について考えました。

「心は目に見えないもので、不思議なもの。いろいろな心があり、その「心」は可能性に満ちあふれている。自分の心を育てるのは自分。思いやりの心や気付く力を持ち、自分も人も大切にできるようになってほしい。」との講話に、子供たちも自分の心について深く考えることができたようです。

また、「人には心の扉があり、その扉は自分でしか開けられない。」ということ、自作の「心」を使って、話してくださいました。心の扉をたくさん開くことで、自分を知ってもらったり、友達ともっと仲良くなったり、自分たちの生活がより豊かなものになるということ、子供たちも感じていました。

